

作家論

中国切り絵アニメーション監督「胡 進慶」(コ・シンケイ)

3210355

胡嫫嫫

目次

第一章 作家紹介

第二章 主な監督作紹介

1. 『しぎと鳥貝が相争う』(1983)
2. 『草人 (かかし)』(1985)
3. 『ひょうたん童子』(1985)

フィルモグラフィー

アワード

第一章 作家紹介

胡進慶（1936.3~）は中国の美術切り絵アニメーションの監督である。生まれは江蘇省常州市。切り絵とアートアニメーションを得意とし、1953年北京電影学校アニメーション専攻を卒業後、上海電影製片廠(上海美術映画製作所)に勤め、これまで演出、制作設計、造形設計、アニメート、監督として計35作の映像作品の制作に携って来た。その内の10作は特に優れており、カットアウト作品『しぎと鳥貝が相争う』、『いたずらな金絲猴』、『草人（かかし）』は中国文化部の優秀映像作品賞を獲得し、『しぎと鳥貝が相争う』は国際アニメーションフェスティバルで4度受賞した。

1958年動作設計として著名監督万古蟾とともに中国最初の切り絵アニメーション『猪八戒スイカを食う』を制作する。その後、「ナッピング」切り絵新技法で試作を制作し、この技法は『しぎと鳥貝が相争う』や『草人』などの鳥の羽の表現に用いられ、中国の多くの水墨画切り絵アニメーションに用いられている。胡進慶は中国切り絵アニメーションにとっても大きな貢献をしてきた。

そして1985年から1990年、5年の時間をかけて監督周克勤とともに中国で最も有名なシリーズ切り絵アニメーション『ひょうたん童子』（全十三話）を作り上げる。

第二章 主な監督作品紹介

1. 『しぎと鳥貝が相争う』（1983）尺：9分37秒

シギトカラスガイガアイアラソウ

英語タイトル：Snipe Clam Grapple

中国語タイトル：『鷸蚌相争』

技法：水墨画切り絵アニメーション（カットアウト）

タイトルの「鷸蚌相争」とは中国語の熟語「鷸蚌相争、漁翁得利」の一部である。古書、西漢・劉向『戦国策・燕策二』からきた典故であり、原文は「鷸曰：『今日不雨，明日不雨，即有死蚌！』蚌亦謂鷸曰：『今日不出，明日不出，即有死鷸！』兩者不肯相舍。鷸者得而并擒之。」訳文：「シギは言った、『今日は雨が降らない、明日も雨が降らない。そしたら死に貝のできあがりだ。ドブ貝もシ

ぎに言った、“今日出なくて、明日も出なかったら、死にシギのできあがりだ”。

そういつて両者はお互い譲ろうとしなかった。そして漁師はそんなドブ貝とシギを同時に捕まえて手に入れてしまった。」「鷸蚌相争、漁翁得利」これは両者が争っている間に、第三者が利益を得ることの例えであり、中国では日常会話にもよく使われる熟語である。作品『しぎと鳥貝が相争う』はこの故事を水墨画カットアウトアニメーションで表現している。

動きはカットアウトだとは思わせないほど滑らかであり、しぎが羽を嘴で突つつく動作や、羽ばたき、実に見事である。私は資料を見る以前、このアニメーションがカットアウト技法だとはわからなかった。この作品に限らず、中国の初期水墨画アニメーションがほとんどカットアウトだと全く知らなかった。それはキャラクターの輪郭に影が見られないことと、動きが滑らかなためであるからだ。これは使用している素材と制作方法に工夫が施されていたからだ。まず、普通の紙ではなく、繊維が細長く、ふんわり柔らかいがしなやかで丈夫である「皮紙」を用いた。「皮紙」は吸水性もよく宣紙（画仙紙）に限りなく近く水墨の滲みを表現できた。そしてキャラクターの輪郭ははさみやカッターナイフで切り落とすのではなく、手でちぎることで「皮紙」の細長い繊維を生かし、これまでの硬い輪郭ではなくふさふさとした自然な輪郭を作り出した。これを「ナッピング切り絵技法」という。本作ではこの技法によってキャラクターが本当に紙に描かれている様な効果をもたらしている。



図：『しぎと鳥貝が相争う』（1983）

2. 『草人（かかし）』（1985）尺：10 分 40 秒

中国語タイトル：『草人』

技法：ナッピング切り絵アニメーション（カットアウト）

『草人』の物語は、自分の池を荒らす2匹の水鳥に腹を立てた漁師が、知恵を働かせ、自らかかしに扮して2匹の水鳥を捕まえるというものだ。物語はシンプルかつ単純なのだが、漁師や水鳥のやりとりが生き生きとしていて、細かい動きや繊細な表情の表現は実に見事である。

技法はカットアウトであり、水墨画切り絵アニメーションではなく、ナッピング切り絵アニメーションといわれている。「ナッピング」は中国語では「拉毛」と表記されており、作品『しぎと鳥貝が相争う』のしぎの羽にも使われている。主に鳥の羽、動物の毛皮などの表現に用いられることが多い。『草人』ではその技法が一段際立って見える。



図：『草人』の水鳥の羽に用いられたナッピング技法

3. 『ひょうたん童子』（1985）全十三話

中国語タイトル：『葫芦兄弟』

技法：カットアウトアニメーション

『ひょうたん童子』は中国のテレビアニメ作品であり、世界でも数少ないシリーズカットアウトアニメである。1986～1987年、中国のいくつかの電視台で全13話放送された。『ひょうたん童子』のストーリーは中国民間文学『七兄弟』を基に構築された中国アニメの代表的な作品の一つであり、知らない人は恐らくいないだろう。周克勤との共同監督だが、胡進慶の作品の中では最も有名で

ある。1987年『ひょうたん童子』放映終了後、1989～1991年に続編の『ヒョウタン小金鋼』で胡進慶は以前の共同監督ではなく、総監督を勤めている。

テレビシリーズなので効率が重要になってくる。以前の水墨画切り絵アニメーションでは時間をかけて動きを設計したり、繊細な追求が困難になる。そもそもカットアウトアニメーションはテレビシリーズには向いていない。しかし、20世紀80年代、切り絵アニメーションでテレビシリーズアニメを制作するという話題が上げられ、それに応えるため、胡進慶らは1985年から1990年、5年の時間をかけてこつこつと『ひょうたん童子』を完成させた。

基になっている民間文学『七兄弟』では7人の兄弟は各自特殊な能力があり、それに応じて外見でも異なる特徴があるものだった。加えて悪代官や悪丞相（昔の王宮の官僚）などと戦う設定のため、膨大な登場人物や背景場面設計が必要になる。それはカットアウトアニメーションにとっては大変手間のかかるものだった。結果、仕方がなく設定を変更したという。

7人のひょうたん兄弟のキャラクターデザインを全て同じにし、服の色で能力を区別し、敵対するキャラクターを蛇と蠍の妖怪とした。登場場面はひょうたん兄弟とおじいちゃんのいる小屋と岩山、蛇と蠍の妖怪の本拠地の洞窟などと最小限にとどめた。技法では全ての登場人物の輪郭線を墨色とし、そうすることによってコピー機で輪郭線を制作用紙にコピーすることができるようになり、それから水彩で着色、カットしていくことで、大幅に効率を上げることが出来た。そうして知恵を振り絞り、カットアウトアニメーションのシリーズ化を実現させる。

登場人物、登場場面を減らした分脚本に力をいれ、少ない場面と思わせない程の優れた作品となった。蛇と蠍の妖怪やひょうたんの設定などは幻想的だからって子供の好奇心を見事に捕らえたのではないかと思う。事実、この年代の子どもたちはテレビに食いついて『ひょうたん兄弟』を見ていたし、何度再放送されてもその人気は褪せなかった。



図：おじいちゃん的小屋



図：蛇と蠍の洞窟、図中は蠍の妖怪

物語：

『ひょうたん童子』

昔、「瓢箪山」と言う山の中に、サソリの妖怪とへびの妖怪が封印されていた。ある日、穿山甲(アルマジロ)がうっかりその山を貫いてしまったため、あの二体の妖怪が逃げ出してしまふ。逃げ出した妖怪たちは悪さをしはじめ、人々とはとんだ災難に見舞われ悲惨な日を過ごすこととなる。穿山甲がこの事件をあるおじいさんに告げると、おじいさんは妖怪を消滅させるために七色の瓢箪を植えた。すると赤、橙、黄、緑、青、藍、紫七つの大瓢箪が実を結ぶ。だが、この作戦は妖怪に知られ、穿山甲とおじいさんは連れ去られてしまふ。

その後、瓢箪は一つ一つ熟成して、七人の立派な男の子になる。彼らは「ヒョウタン兄弟」(葫芦兄弟)或は「ヒョウタンの子」(葫芦娃)と呼ばれて、非凡な能力を持っていた。妖怪を退治して穿山甲とおじいちゃんを助けるために、ヒョウタン兄弟たちは生まれると妖怪たちと戦った。だが、蛇・蠍の妖怪の力と法宝はただ物ではなく、兄弟たちは様々な困難と危険に遭遇する。全員鍊丹の窯に入れられ燃やされそうになるほどの危険な状況もあったが、最終的には七人の兄弟は七色の峰に変わり、サソリ大王とへびクイーンをまた封印し消滅させることに成功した。

続編『ヒョウタン小金剛』

へびの妖怪(クイーン)は妹の青い蛇がいる。青い蛇は姉と姉婿がヒョウタン兄弟に消滅させられたことを知った後、復讐と七心丹のために、七色の峰を開削した。こうして、ヒョウタン兄弟の新たな戦いが始まる。青い蛇は玉簪と錦囊乾坤袋という二つの法宝を持っており、その神通力の前に、兄弟たちは一つ一つ捕らわれることとなる。そしてまたしても全員鍊丹の窯に入れられてしまふが、窯の中で七人の兄弟は七色の蓮子の力を発揮し、合体して一人になった。それが「ヒョウタン小金剛」である。ヒョウタン小金剛は七人の能力を持っていて、最強のヒョウタンの子であった。

しかし、それでも青い蛇クイーンに勝つためにはあの二つの法宝を破壊しなければならず、最後の決戦が始まることになる。ヒョウタン小金剛は様々な強力な敵と戦いを続け、ようやく法宝を見つけて破壊することに成功する。そして、この青い蛇も封印され、人々のもとには平和な日々が戻った。

ひょうたん兄弟：

- ・ 長兄（大娃） 服の色：赤。 能力：強力無双で、巨大化することができる。
- ・ 次兄（二娃） 服の色：オレンジ。 能力：千里眼と順風耳。
- ・ 三兄（三娃） 服の色：黄色。 能力：堅い体、手刀は鉄を泥のように削れる
- ・ 四兄（四娃） 服の色：緑。 能力：炎と霹靂を吐く。
- ・ 五兄（五娃） 服の色：水色。 能力：水を吸ったり吐いたりする。
- ・ 六兄（六娃） 服の色：青。 能力：隠身術（不可視化）
- ・ 末弟（七娃） 服の色：紫。 能力：法宝の瓢箪がどんなものでも吸い込める。



図：おじいちゃんと七色のひょうたん兄弟



図：ひょうたん兄弟の長兄（大娃）



図：蛇クイーン（左）とサソリ大王（右）

胡進慶フィルモグラフィー

監督作品

- 『小林日記』（林さんの日記）（1965）
- 『万吨水压机战歌』（万吨水压机戦歌）（1972）
- 『带响的弓箭』（音の鳴る弓）（1974）
- 『山羊回了家』（家に帰った山羊）（1977）
- 『丁丁战猴王』（丁丁ボス猿と戦う）（1980）
- 『淘气的金丝猴』（いたずらな金糸猴）（1982）
- 『鹬蚌相争』（しぎと烏貝が相争う）（1983）
- 『草人』（かかし）（1985）
- 『螳螂捕蝉』（蝉を捕らえるカマキリ）（1988）
- 『葫芦兄弟』（ひょうたん童子）（1988-1990）
- 『强者上钩』（釣られた強者）（1988）
- 『葫芦小金刚』（ヒョウタン小金剛）（1989-1990）
- 『智斗乌鸦』（カラスと知恵比べ）（1991）
- 『猫与鼠』（ネコとネズミ）（1992）
- 『自古英雄出少年《赵云拜师》《牧童评画》』（1996）
- 『自古英雄出少年《小鸟之友》《小于连救城记》』（1996）
- 『雪狐』（1998）

アニメート作品

- 『骄傲的将军』（傲慢な将軍）（1956）作画アニメート
- 『猪八戒吃瓜』（猪八戒スイカを食う）（1958）アニメート
- 『渔童』（1959）アニメート
- 『济公斗蟋蟀』（済公とコオロギ）（1959）アニメート
- 『人参娃娃』（人参人形）（1962）キャラクター服装設計・アニメート
- 『等明天』（明日を待つ）（1962）アニメート
- 『金色的海螺』（金色のホラ貝）（1963）造形デザイン・アニメート
- 『红军桥』（紅軍橋）（1964）アニメート
- 『熊猫百货商店』（パンダ百貨店）（1979）美術(制作設計)
- 『狐狸分饼』（餅を分ける狐）（1992）造形デザイン

『小鸟之友』（小鳥の友）（1996）美術（制作設計）

『小于连救城记』（1996）美術（制作設計）

『牧童评画』（1996）美術（制作設計）



図：水墨画切り絵アニメーション『山羊回了家』（家に帰った山羊）（1977）



図：水墨画切り絵アニメーション『淘气的金丝猴』（いたずらな金絲猴）（1982）



図：ナッピング切り絵アニメーション『草人』（かかし）（1985）



図：水墨画切り絵アニメーション『螳螂捕蝉』（蝉を捕らえるカマキリ）（1988）



図：切り絵アニメーション『智斗乌鸦』（カラスと知恵比べ）（1991）



図：ドローイングアニメーション『骄傲的将军』（傲慢な将軍）（1956）



図：切り絵アニメーション『猪八戒吃瓜』（猪八戒スイカを食う）（1958）



図：切り絵アニメーション『渔童』（1959）



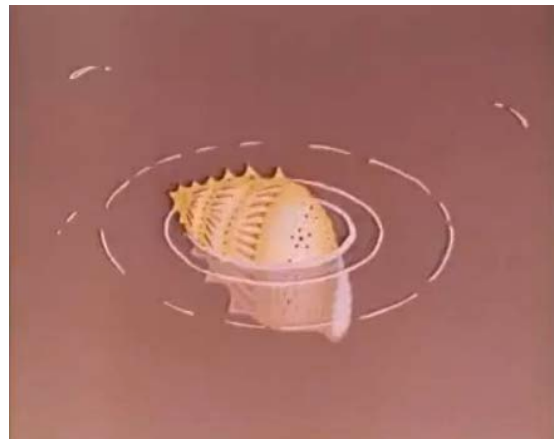
図：切り絵アニメーション『济公斗蟋蟀』（1959）



図：切り絵アニメーション『人参娃娃』（1962）



図：切り絵アニメーション『等明天』（明日を待つ）（1962）



図：切り絵アニメーション『金色的海螺』（金色のホラ貝）（1963）



図：水墨画切り絵アニメーション『熊猫百货商店』（パンダ百貨店）（1979）



図：切り絵アニメーション『狐狸分饼』（餅を分ける狐）（1992）

アワード

『人参娃娃』（人参人形）

1961年 第四回ドイツ ライプチヒ国際短編ドキュメンタリー映画・アニメーション映画映画祭 名誉賞

1979年 第一回エジプト アレクサンドリア国際映画祭 ベストキッズ映像
銀のマーメイド賞

『金色的海螺』（金色のホラ貝）

1964年 第三回インドネシア アジア・アフリカ映画祭 ルムンバ賞

『淘气的金丝猴』（いたずらな金絲猴）

1982年 中国文化部優秀映像作品賞

『鵲蚌相争』（しぎと烏貝が相争う）

1983年 中国文化部優秀映像作品賞

1984年 第四回中国金鶏獎ベスト藝術映像賞

第34回ドイツ ベルリン国際映画祭 短編作品銀熊賞

第6回ユーゴスラビア ザグレブ国際アニメーション映画祭特別賞

カナダ トロント国際アニメーション映画祭特別賞

『草人』（かかし）

1985年 中国ラジオ・映画・テレビ部門優秀映像賞

1987年 第二回日本広島国際アニメーションフェスティバル
カテゴリーC（子どもむけの作品）第一位

『螳螂捕蝉』（蝉を捕らえるカマキリ）

1988年 上海国際アニメーション映画祭 グループ賞

『葫芦兄弟』（ひょうたん童子）（全十三集）

1989年 （第3、4集）中国ラジオ・映画・テレビ部門1986-1987年優秀作品賞
中国第三回児童少年映画祭子牛賞

『強者上钩』（釣られた強者）

1990年 第三回日本広島国際アニメーションフェスティバル

カテゴリーE（上映時間が5分以内の作品） 第一位